



神奈川県
教育委員会

令和6年度（令和5年度施策・事業対象）
教育委員会の点検・評価

令和6年9月

はじめに

県教育委員会では、子どもたちへの教育をめぐる課題が複雑かつ多様化する中で、明日のかながわを担う人づくりを進めるため、平成19年8月に本県の教育の総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」を策定しました。

この教育ビジョンでは、基本理念として「未来を拓く・創る・生きる 人間力あふれる かながわの人づくり」を掲げ、自己肯定感を基盤とした「思いやる力」・「たくましく生きる力」・「社会とかかわる力」の育成を教育目標として、教育施策に取り組んでいます。

令和5年5月に、新型コロナウイルス感染症は5類へ引き下げられましたが、長期化したコロナ禍で、貧困やヤングケアラーなど様々な問題が顕在化しました。そうした困難を抱える子どもたちに対応するため、全国に先駆け、公立小・中学校及び県立高校等において、1人1台端末等を活用して心の状態や生活状況をチェックし、支援につながる「かながわ子どもサポートドック」の取組を開始するなど、教育相談体制の充実を図ってきました。

少子化・人口減少、グローバル化の進展、AI等の技術革新など、社会が大きく変化する中でも、子どもたちが「生きる力」を身に付けることができるよう、これからも教育の質の確保と学びの充実に取り組んでいきます。

今後とも、教育ビジョンで掲げた理念の実現に向け、点検・評価の結果を施策・事業の改善に役立てながら、取組を進めていきますので、県民の皆様には、本報告書をご覧いただき、県教育委員会の取組に対するご意見をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

令和6年9月

神奈川県教育委員会

目次

教育長及び教育委員会委員のメッセージ	1
教育委員会について	5
点検・評価の概要	8
点検・評価結果	9
点検・評価一覧	9
主要な取組の結果	10
各取組の結果	14
Ⅰ 生涯学習社会における人づくり	14
Ⅱ 共生社会づくりにかかわる人づくり	19
Ⅲ 学びを通じた地域の教育力の向上	31
Ⅳ 子育て・家庭教育への支援	34
Ⅴ 学び高め合う学校教育	36
Ⅵ 意欲と指導力のある教職員の確保・育成と 活力と魅力にあふれた学校づくり	45
Ⅶ 県立学校の教育環境の改善	51
Ⅷ 文化芸術・スポーツの振興	54
資料	59
○ 令和5年度教育委員会予算体系図	60

教育長及び教育委員会委員のメッセージ



教育長 花田 忠雄

貧困やヤングケアラーなど子どもたちが抱える困難を、学校がいち早く把握し、必要に応じて医療や福祉の支援につなげられるよう、全国に先駆けて「かながわ子どもサポートドック」の仕組みを構築しました。学校は今、支援のプラットフォームとしての役割も果たしています。

こうした中、今後も、子どもたちへ個別最適な学びや協働的な学びを提供するためには、教員の働き方改革の取組が欠かせません。県教育委員会では引き続き、教員の負担軽減に向けた取組を進めることで、教員のウェルビーイングを向上させ、教育の質の向上にしっかりとつなげてまいります。



教育委員会委員 下城 一

神奈川県はフルインクルーシブをめざします。これまでの、分離が当たり前の学校教育から意識を切り替え、例えばどの学校にもエレベーターがあれば、車椅子だけでなく、ベビーカーも高齢者も利用でき、多様な人達がハンデを感じず生きられる社会の魁（さきがけ）になります。まずは選択肢を増やすこと。時間もお金もかかっても、どの学校でも選べる・学べることを目標に。もちろん教員も不安にさせない、専門家の助言・支援がいつでも得られる学校環境の整備。

「不登校」の増加は（名称の再検討も必要ですが）、今の自国第一主義、SNS 等のエクスクルーシブな社会のマインドを、なにより子供達が敏感に感じている表れかもしれません。少しでも、その減少を願って。



教育委員会委員 吉田 勝明

神奈川県は素晴らしい！運動面では野球・ラグビー・サッカー・柔道他たくさんのクラブ活動が全国大会で好成績を上げています。一方でインクルーシブ教育の分野でも日本におけるフロントランナーを駆け抜けています。こんなことをインターハイや高校生版教育委員会など、直接学生たちに接する場面を感じています。3年前に今のYouTubeを予想した人は誰もいませんでした、つまり3年後はわからない。今後、AIの進化、将来の職業、約6割が今は無い新しい職業に就くという、そんな多様性の時代、うまく適応して乗り越えていく子ども達の成長を願っています。



教育委員会委員 笠原 陽子

ドイツの教育学者で、教育学体系樹立の祖として有名なヘルバルトが、教師の在り方について論じている中で、「出会い」について次のように述べています。

「子どもとの出会いの音階を即座に調整することが、教師を教師として特徴づける最大の技術である。」

音階にたとえて、上下様々な高さに広く子供たちの音階が存在していることに対して、教師の音階も子供の音階に合わせて、自由自在に調整されなければならないと。そして、このことが行われなければ、教師は自分の音階の高さと同じ子供としか出会えないし、対応できないということであり、「個別最適な学び」を掲げる令和の日本型学校教育に対して重要な示唆を与えていると思います。

こうした「子どもとの出会い」の時間を大切にしたいと、日々子供たちと向き合っている多くの先生方が時間的、精神的なゆとりを持って「子どもとの出会い」ができ、子供たちの内なる可能性を引き出していただける教育環境の整備に、今後も全力で取り組んでまいります。



教育委員会委員 佐藤 麻子

21世紀に入っても戦火が絶えないとは、人間はそのような愚かなものなのでしょうか。他国がどのように自分たちを見ているか、歴史が何を私たちに教えているか、見るべき・聞くべき情報を遮断され、為政者のゆがんだ思想に同調するように扇動されている（あるいは抑圧されている）のでしょうか。

私たちは、神奈川県の子どもたちが、自己肯定感を基盤として、人を思いやり自らの人生をたくましく生き抜けるようにと願って教育施策に取り組んでいます。どうか、お互いの生を尊重しあい、それぞれの能力を十全に発揮できますように。国のために国民があるのではなく、国民のために国があるのですから。



教育委員会委員 常陸 佐矢佳

2024年は能登半島地震に始まり、株式市場の歴史的な乱高下にも見舞われました。技術革新も加速度的に進む変化が大きい世界で、学校は子どもたちが社会で居場所を見つけるために力を蓄える場所であってほしいと考えています。

得意なことや人から感謝されること、何よりも夢中になれること。そのヒントが見つければ、世界のルールがどんなに変わっても、次のステージに飛び立つための翼になるでしょう。

「成功」だけではなく「失敗」から学ぶことも多いはずです。そのために安心して挑戦できる環境を作ることは、私たちの役割です。課題は山積していますが、対話を通じて「本音」に耳を傾け、神奈川の教育を充実していけるよう励んでまいります。

教育委員会について

1 教育委員会の概要

教育委員会は、教育長及び5人の委員（計6人）をもって構成され、この6人の合議により、教育行政の運営に関する基本方針を決定します。

会議は、教育長が招集し、教育長及び在任委員の過半数の出席により開催され、出席者の過半数で議決されます。

なお、教育委員会の権限に属するすべての事務を会議にかけるのではなく、日常的な事務等一定の事務については、教育長に委任されています。

2 教育委員会の構成員

(令和6年4月1日現在)

職名	氏名	現職等
教育長	花田 忠雄	—
委員	下城 一	横浜国立大学教育学部教授
委員	吉田 勝明	横浜鶴見リハビリテーション病院院長
委員	笠原 陽子	玉川大学教師教育リサーチセンター 独立行政法人教職員支援機構玉川大学センター担当 客員教授
委員	佐藤 麻子	R&G横浜法律事務所弁護士
委員	常陸 佐矢佳	日経BOOK プラス編集長

3 教育委員会委員の活動

(1) 教育委員会会議

教育委員会委員は、毎月開催される教育委員会定例会及び臨時会に出席します。

また、審議に当たっては、事前に委員一人ひとりが、議案や協議事項について十分な調査や研究を行い、教育委員会会議に合わせて開催している委員協議会で様々な研究協議を行うなど、教育行政の改善・推進に向けた審議の充実に努めています。

(2) その他の活動

教育委員会委員は、教育委員会会議での審議のほか、「かながわ教育ビジョン」に基づく施策の推進に資するよう、教育にかかわる各種会議・行事への出席や施設訪問等を行い、委員会活動の充実に努めています。

令和5年度は、県教育委員会主催事業への参加のほか、2～3か月に1回程度、学校、社会教育施設などを訪問し、施設や事業の概要説明を受けるとともに、授業等の見学、教職員・生徒の皆さんとの懇談等を行い、教育現場の現状把握に努めました。

各種会議等への参加・施設訪問

第47回全国高等学校総合文化祭・鹿児島大会 (令和5年7月29日・30日 鹿児島市)



総合開会式に出席するとともに、美術・工芸部門及び写真部門の各会場を視察し、神奈川県代表生徒を激励しました。

県立横須賀工業高等学校への施設訪問 (令和5年9月26日)



令和4年度に建設科を新設し、工業4科（機械科、電気科、建設科、化学科）に改編した県立横須賀工業高等学校を訪問しました。

かながわ人づくりコラボ2023 (令和5年10月28日 県立総合教育センター)



「かながわ教育ビジョン」に基づき、人づくりの一層の推進を図る「かながわ人づくりコラボ2023」で、コーディネーターとして登壇し、教育論議の進行を行いました。

県立橋本高等学校への施設訪問 (令和5年10月17日)



インクルーシブ教育実践推進校・在県外国人等特別募集実施校である県立橋本高等学校を訪問しました。

令和5年度「教育功労者表彰」表彰式 (令和5年12月21日 県庁本庁舎)



神奈川県内の学校教育及び社会教育の振興、研究又は改善に努め、特にその功労の顕著な方（学校教育功労18名、社会教育功労4名）計22名を表彰しました。

県立あおば支援学校への施設訪問 (令和6年1月19日)



令和2年4月に開校した、3つの学部（小学部、中学部、高等部）と2つの課程（肢体不自由教育部門、知的障害教育部門）がある県立あおば支援学校を訪問しました。

令和5年度 主な活動

活動内容	実績
教育委員会会議	開催回数 15回 (定例会 12回、臨時会 3回) 【付議案件等件数】 付議案件 60件 報告案件 26件 請願 2件 協議・報告事項 26件
総合教育会議	開催回数 2回 (第1回・第2回(書面開催) 総合教育会議)
全国都道府県教育委員会連合会主催会議	開催回数 2回 (全国都道府県教育委員会連合会 第1回・第2回総会)
1都9県教育委員会主催会議	開催回数 2回 (1都9県教育委員会 全委員協議会、同 委員協議会)
施設訪問	訪問回数 8回 (学校 6回、社会教育施設 1回、その他 1回)
その他各種行事	インクルーシブ教育推進フォーラム 神奈川県優秀授業実践教員表彰式 ほか

教育委員会会議の結果や教育委員会委員の活動については、県ホームページから御覧いただけます。

教育委員会会議の結果：<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/u5t/cnt/f4139/r5/kaigikaisai.html>

教育委員会委員の活動：<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/u5t/cnt/f4139/r5/katsudou.html>

点検・評価の概要

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）が平成19年6月に改正、平成20年4月に施行されたことに伴い、教育委員会は毎年、その教育行政事務の管理執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

県教育委員会の活動については、広報紙や広報番組、ホームページ等の様々な方法により県民の皆様にお知らせしているところですが、法に基づき、「教育委員会の点検・評価」（以下「点検・評価」という。）を実施し、その結果を公表するものです。

2 点検・評価の対象

今日の教育課題を解決していくため、特に、集中的・横断的に進めていく必要のある取組を、本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」の「第5章 重点的な取組み」で整理し、そのうち主なものを県の総合計画である「かながわグランドデザイン」の実施計画に位置付けて取り組んできました。

令和5年度施策・事業対象の点検・評価においては、「かながわ教育ビジョン」の「第5章 重点的な取組み」のうち、「かながわグランドデザイン 第3期実施計画」に位置付けた施策・事業及び令和5年度当初予算の「主要事業の概要」に位置付けた施策・事業等の主要なものを点検・評価の対象としています。（9ページ「対象施策・事業一覧」参照）

3 点検・評価の方法

点検・評価に当たっては、「かながわグランドデザイン 第3期実施計画」で設定した指標及びKPIについて分析するとともに、「かながわ教育ビジョン」の8つの大柱に、各々に設定した中柱ごとの取組について「主な取組」及び「今後の取組方針」を記載しています。

また、法に基づき、点検・評価の客観性を確保するため、各取組の実施状況や今後の取組方針について、学識経験者などの有識者からご意見やご助言をいただきました。

<有識者氏名及び役職>

(五十音順 敬称略)

氏名	役職
折笠 初雄	学校法人岩谷学園 学園本部 理事・本部長 桐蔭横浜大学 客員教授
小林 真希	神奈川県PTA協議会 会長
阪本 光章	神奈川新聞クロスメディア営業局広告デジタル部員
佐々木 悦子	NPO教育かながわフォーラム 理事
佐藤 晴雄	帝京大学 教育学部長
高木 まさき	公益財団法人教科書研究センター 統括研究監
竹村 光史	株式会社光洋 代表取締役社長

(役職は、令和6年7月1日現在)